

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部土木工学科内

TEL：03-3259-0662

FAX：03-3293-3319

http://www.nu-dobokukai.com

総会開催 竹澤会長挨拶



本日、日大土木会総会を開催するに当たり一言ご挨拶申し上げます。

日大土木会が設立されてから早や十四年目を迎えることになりました。今、土木工学科と名の付く大学は数少なくなり、全国で二、三大学のみになってしまいました。日大もその少数大学の一つであります。日本大学は理工学部・工学部・生産工学部の三学部で約五百名の土木技術者を毎年輩出しております。嘗ては三学部で約千人の土木技術者を輩出しておりましたが、その後、時代の趨勢により理工学部では交通システム工学科と

まちづくり工学科、工学部では情報工学科、生産工学部では環境安全工学科が設立され土木工学科の定員が削減されました。千人の土木技術者を輩出していた時代には全国の大学で輩出された土木技術者の約一割が日本大学から輩出された土木技術者でありました。土木工学科が全国の大学で改名されましたが、そのカリキュラムや教員は土木工学科時代とほとんど変わっていないところが不思議です。土木工学科が改名されても土木技術者と称して職場で活躍できるところが面白いところでもあります。

一九二〇年六月にわが国の私学で初めて設立された日本大学高等工学校土木科がその母体であります。太平洋戦争を乗り越え、さらにその後の戦後復興に尽力してきた

日本大学から輩出された土木技術者は、現在の社会基盤を築き上げてきたと言っても過言ではないと思います。かつて評論家の故大宅壮一氏が日本の国家をつくりあげてきたのは東京大学の官僚と日本大学の土木技術者であると論評されていた記事を記憶しています。日本大学の学祖である山田顕義伯爵は東京で流行したコレラをなくすために東京の神田下水を提案したと言われています。偶然かもしれませんが日本大学と土木技術は深い縁があるようです。

日本大学には卒業生の多くの集まりがあります。日大土木会もその一つであります。あくまでも任意に入会できる同志の集まりであります。日本大学理工学部、工学部、生産工学部の三学部を卒業された土木技術者だけでなく日大土木に興味を持たれる方々も自由に参加できる会として発展させていきたいと思っております。その昔、故吉田茂首相が日本大学での

祝辞で「数は力なり」と評したことがあります。土木工学科の科名が変更されていく中で、日本大学ののみが土木技術者を育てているという証を世の中に示していただきたいと思えます。

今後、益々、日本大学の発展と日大土木会が永遠に繁栄していくことを期待いたします。

松田 慎一郎 先生を偲んで

会長 竹澤三雄
副会長 丹上幸一

平成十八年から昨年平成二十四年まで、当「日大土木会」の会長を、お



(故)松田 慎一郎 元会長
(平成 22年 春の叙勲)

勤め頂いた「松田慎一郎先生」は、昨年、平成二十四年十二月十七日、ご逝去されました。享年八十歳でした。

本日は、この場をお借りしまして、松田先生の略年譜をご紹介させて頂き、先生への追悼と感謝の気持ちを、皆様と分かち合いたいと思えます。

松田先生は、昭和八年一月五日、長野県上伊那郡辰野町に四男一女の長男として生まれました。長野県立岡谷南高校卒業後、昭和二十六年四月日本大学医学進学過程に特待生入学されております。しかし、一年後、ご家庭の事情により工学科(現理工学部)土木工学科に編入し、昭和三十年三月同科を卒業されました。

以後は、松田先生の業務経歴を御紹介します。昭和三十年 埼玉県久喜町役場土木科勤務時代、町村としては全国で初めて「公共下水道」建設に係る国への申請を行い、建設省、厚生省の許可を得ます。これが、松田先生が以後、公共公益施設整備・都市づくりへ、大きく踏み出す第一歩となったと言われています。

昭和三十三年十一月、日本住宅公団に入社。公団では、都市開発事業に主に取り組み、支社、開発本部、本社と様々な処で、様々なプロジェクトに携わり、とりわけ公共公益施設整備に関しては草分け的存在となっております。

特に、当時は高度経済成長の真つ只中。大都市圏への人口集中に対応すべくニュータウン開発が提案される中、その障害となっていた自治体の費用負担の問題を解決すべく様々な方たちで尽力し、昭和四十二年六月一関

連公共施設費用負担ルール」いわゆる五省協定を成立させ、ニュータウン建設の推進に大いに貢献されました。

また、関連公共施設整備促進事業制度の創設、CATV・地域冷暖房等の新都市施設、それらを収容する新都市施設共同溝等の導入、整備に携わってられました。

その後、本社都市開発事業部長、つくば開発局長、首都圏都市開発本部長、常任参与、を経て、平成三年十二月、公団理事に就任。この間、「グレーターつくば構想」「常磐高速道路路線バス運行」「常磐新線沿線都市開発」「沖縄首里城公園」「北総公団鉄道二期線工事」等様々な事業を推進してこられました。

平成五年五月、公団理事を退任され、同九月、センター社長に就任。平成十三年六月に退任。この間、平成七年四月、東京大学より工学博士の学位を取得されました。この時の学位論文「都市開

発における水循環再生システムの構築過程とその総合化に関する研究」は、平成八年、「日本都市計画学会論文賞」を、受賞されております。

平成十四年九月、日本大学常務理事に就任。そして、常務理事を退任される、平成十七年九月までの間、「お茶の水キャンパス整備構想委員会」をはじめとする学内委員会の委員長等を務められました。また、平成十四年十月から(株)エヌ・エフ・ジャパンの特別顧問も務められておりま

す。

また、平成十八年七月に、日大土木会会長に就任され、三期六年間にわたり日大土木会のために多大なるご尽力をいただきました。

さらに、長年にわたる社会貢献が認められ、平成二十二年四月、春の叙勲において「旭日双光賞」を受賞されました。

その社会貢献の一環として就任されました、主な外部委員・役員は、○宅地造成技術講習会考査委員長

○日本技術士会試験委員
○土木学会環境システム委員会副委員長
○都市計画協会常務理事
○総合科学研究機構副理事長
○リバーフロント整備センター監事
○都市文化振興財団理事
○先端建設技術研究センター評議員
○下水道新技術推進機構評議員



松田 慎一郎先生を偲ぶ会

松田先生は、東京オリムピックの前年、昭和三十八年八月、登喜子様と御結婚され、長男幸一さんを授かりました。その後、ご家族で幸せな生活を歩んでまいりましたが、六年前に最愛の息子・幸一さんを亡くされ、昨秋には奥様・登喜子様に先立たれ、同年十二月、後を追うように、永遠の旅につかれました。

享年八十歳、今の時代には早すぎる旅立ちです。公私ともに充実した変化にとんだ幸せな生涯を終えられました。太く短い人生でしたが、人生を全うされたと言っても

良いと思います。力の限りを尽くして生きた松田先生は、私たち後輩に多くのものを残して下さいました。

松田先輩に感謝しつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

松田先生、本当に有り難うございました。

合掌。

土木系三学部四学科
主任教授から挨拶

【理工学部・土木工学科】
主任教授 野村 卓史



①主任教授挨拶
平成二十四年十月から土木工学科並びに土木工学専攻の主任を仰せつかっております。平成十六年十月から二年間教室主任を務めましたので二度目になりますが、当時とは学科や大学を取り

巻く環境も教室の教員メンバーも大きく異なっておりますので、新任のつもりで微力を傾注しているところですが、しかし当時も今も、土木教室の教育活動ならびに学生の就職に、日大土木会の会員の皆様をはじめ多くの校

友の皆様を熱意ある多大なご支援とご指導をいただいておりますこと全く変わりがなく、と就任して改めて強く感じております。この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願いいたしますとともに、校友の皆様のもと

ますのご活躍、ご発展を祈念しております。

②学科の話題
今春、平成二十五年四月から、理工学部の学科再編に伴い、土木工学科は一学年の定員を二八〇名から二二〇名に変更し、新たなスタートを切りました。顧みれば昭和五十一年に学科定員を四十名増やして二八〇名にして以来の定員削減ですが、決して後ろ向きの施策ではありません。各分野に幅広く人材を輩出するという日大土木の役割を担いつつ、十八歳人口の減少と社会のニーズを鑑みた適正な人数に近

NUCivil
日本大学理工学部 土木工学科

最新情報
 「東京理科大学」理工学部の発展(2012.7.8)
 理工学部が日本理工学部会館を完成させた(2012.7.8)
 オープンキャンパス参加人数が前年より、7月15日(日)に増加しました(2012.6.18)
 「土木女子の会」が開催されました(2012.5.14)
 大学理工学部と理工学部の懇話会が開催されました(2012.4.6)

つけることで、より優秀な学生を迎えることと教育環境の向上を図りました。カリキュラムの面では、引き続き土木の主要な分野に対応した「構造工学・地震工学」、「水工水理学」、「地盤工学」、「交通工学・国土計画」、「土木材料・力学一般」、「土木環境システム」の六分野の基礎を確実に身に付けさせることを柱に据えています。昨年度は国家公務員採用試験総合職(旧国家I種)に学部生が合格するなど成果もみられます。

一方、大学院教育については、カリキュラム改訂を目指し準備に取りかかったところです。近年は学部の就職状況が好調なこともあり、大学院への進学者数は多くありませんが、熱心に研究活動に勤しみ、学会等外部発表において優秀発表賞を受賞するなど活躍しています。また、昨年度も修士論文発表優秀者には、日大土木会より「日大土木奨励賞」を授与していただいています。改めてお礼申し上げます。

二十四年度の四名の受賞者名と論文題目は次のとおりです。

佐藤麻衣
「堰下流側に形成される跳水の流速分布特性」

藤井大地
「下水処理水が流入する都市河川における亜酸化窒素の生成に関する研究」

高野淳
「高分解能衛星画像を用いた陸前高田市の津波による被災状況の時系列調査」

大湊周作
「実測記録に基づくアーチダムの二次元有限要素モデリング」

就職につきましても、日大土木会による現場見学会やOBとの懇談会の支援のほか、諸先輩方の多大なご尽力により、好調に終えることができました。二十四年度は、博士後期課程三名、博士前期課程三十一名、学部二四〇名(九月卒業生含む)が卒業しましたが、公務員八十八名、建設業八十二名、コンサルタント二十三名、運輸十一名ほか各方面に多くの学生を送り出すことができました。また、二十五年度の新生は、学部生二三〇名、大学院生(修士課程)十五を迎え入れることができました。

公務員組織の面では、長きにわたり学部、学科を支えられ、また水理学の分野の研究・教育において多大な貢献をされた大津岩夫教授が、昨年度末を以て定年退職されました。一方、この四月からは、教育体制の充実を図るべく、新たに若い三名の教員を新規に採用しました。熊野直子助手(地盤分野)、高橋直己助手(水工分野)、野村瞬助手(地盤分野)です。初年度教育の重要性が増しており、専門以外にも測量実習や各演習科目等、若い教員を交えながら基礎力のある実践的な学生を育てて参ります。



【理工学部・交通システム工学科】
主任教授 佐田 達典

交通システム工学科の教室主任を務めております佐田でございます。昨年十月に教室主任を拝命し来年度末までの任期となります。

最初に、本学科は本年四月一日より社会交通工学科から交通システム工学科へ名称を変更いたしましたことをご報告申し上げます。本学科は一九六一年に交通工学科としてスタートし、昨年度、学科創設五十周年を迎えることができました。これまでわが国で唯一の交通施設の計画、建設、そして管理・運営を行える技術者の育成を行う土木工学系の学科として教育・研究を進めてまいりました。しかしながら、近年の情報・コミュニ



ケーション技術の進展は目覚ましく、加えて東日本震災以降、エネルギー・環境に対する考え方の変化も大きく、交通に対しては、情報技術を活用し移動者と交通機関・交通施設が有機的に結合した交通システムの再構築と、それによるより安全で持続的な交通社会の創出が求められており、学科としてもこのような状況に対応した教育と研究を展開していく必要に迫られております。すでに平成二十年のカリキュラム改訂時から、①高度情報技術を活用した高度交通システム(HITS)などに代表される高度な交通システムに対する

交通システム工学科

コース案内

JABEE 認定学科

Open Campus

交通まちづくり工房

写真コンテスト

資料請求

理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多面的側面から捉え直していく創造力の養成、③個々の交通施設や交通機関が連携・統合した一つのシステムを構築していくマネジメント力の養成を目指し教育・研究活動を進めてまいりましたが、理工学部で学科再編が実施されるのを契機に、学科の今後進むべき方向をより明確にするため、平成二十五年四月一日より学科名称を交通システム工学科に変更いたしました。

学科名称は変更いたしました。学科名称は変更いたしましたが、土木工学に軸

足を置く学科であることに変わりはないとさせていただきます。交通システム工学科にとりまして、教育、研究、就職活動などのあらゆる面におきまして、理工学部土木工学科殿をはじめとする土木会各学科との連携は不可欠です。これからの連絡を密にして進めさせていただきますと存じます。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

コース制導入！ 自分の将来像に合った2つのコースを選べます

エンジニアリングコース

計画、建設、評価からデザイン・設計等に幅広く対応できる交通・建設エンジニア

マネジメントコース

経営ビジネス、国際社会、観光分野に対応できる交通・都市・環境マネージャー

受験生	1年次	2-4年次	大学後	卒業後
理系	共通基礎	エンジニアリングコース	高度専門	建設、構造設計、運輸(建設)、公務員(建設)
文系		マネジメントコース		建設コンサルタント、意匠設計、物流、情報、公務員(交通技術)
運輸(事業)、旅行、流通、調査、不動産開発、公務員(行政)				

【学科の話題】

学部生、大学院生の就職状況につきまして、諸先輩方のご支援により、ここ数年好調を維持しております。平成二十四年度の内訳は、公務員二十七名、建設業二十七名、運輸二十名、コンサルタント七名などとなっております。また、平成二十五年度新入生として学部生百四十八名、大学院生十七名を新たに迎えられることができました。

【その他】

卒業生のネットワークは、大学にとって大変貴重な財産です。交通システム工学科では、各学年の同窓会、各研究室でのOB・OG会などの開催を支援させていただいております。大学での開催を検討されている卒業生の皆さんは何時でも遠慮なく学科の方へご相談ください。お待ちしております。

幸専任講師が私立大学情報教育協会の奨励賞を受賞されました。

教室人事として、平成二十四年度で柳沼善明教授、長田哲平助教、西内裕晶助教が退職され、平成二十五年度より川崎智也助教、吉田庸助手が採用されました。また、学科再編により新設されたまちづくり工学科へ天野光一教授、岡田智秀准教授、阿部貴弘准教授、押田佳子助教が移籍され、本学科は兼担となりました。教員の近況としては、岡田智秀准教授が日本都市計画学会の年間優秀論文賞を受賞され、中山晴

日本大学工学部
Department of Civil Engineering

学科トピックス

- 2019年04月01日 2019年度土木学会大会にて優秀発表賞受賞
- 2019年06月27日 社会基盤力強化プロジェクトの公募事業受賞
- 2019年12月1日 社会基盤力強化プロジェクトの公募事業受賞
- 2019年12月1日 社会基盤力強化プロジェクトの公募事業受賞
- 2019年11月19日 土木学会の大会発表が学会で優秀発表賞を受賞しました。
- 2019年10月19日 日本大学工学部土木工学専攻が学業優秀賞を受賞しました。

学科の特徴

研究室紹介

JABEE関連



【工学部・土木工学科】

主任教授 堀井雅史



日大土木会の皆さん、平成二十三年度から主任を仰せつかっている堀井でございます。今年度で三年の任期を終える予定です。日大土木会には、日頃より工学部土木工学科の教室運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで、

震災以降、工学部では落ち着きを取り戻し、入学者数は震災以前と同等になっていきます。すでに平成二十五年度前期の授業を開始し、フレッシュユナ学生に対して、授業を開始しているところであり、これから社会に貢献できる技術者として教育していきたいと思っております。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。さて、土木工学科では、平成二十五年度より新しい教員を二名お迎えしております。お一方は永田進特任教授であります。永田先生は本学部建築学科を卒業後、多くの高校で教鞭をとられ、この間優秀な学生を多数土木工学科に送り込んでいただきました。このたび土木工学科にお招きし、教職関係の科目を担当いただくとともに、さらなる学生の獲得に尽力いただきます。もうお一方は、本工学科研究科土木工学専攻修了の手塚公裕助教です。

手塚先生は、直近では佐賀大学低平地沿岸海域研究センターにて研究員として勤務しており、有明海の環境変化の解明と予測プロジェクトのメンバーとして活躍されていきました。土木工学科においては、その若い力で後輩の指導、さらには研究にとがんばってもらいたいと思っております。研究面では、本学科中村晋教授を代表者とする私立大学戦略的研究基盤形成支援事業が平成二十四年度に採択されました。研究テーマは「福島県発の災害に強く自立共生が可能な住環境の創成に関する研究」であり、福島県の復興を支援するため、多分野の研究者が協力して、災害に強くエネルギー自立と自然環境との共生・調和が可能な住環境を構築するための様々なシステムの創成を行うプロジェクトであります。現在、各分野の研究者が精力的に研究活動を実施しており、工学科の特徴であるロハス工学を基盤とする研究成果が

新コースの紹介

社会基盤デザインコース

自然災害から人々を守り、交通網の整備や都市建設といった社会基盤の構想づくりから、その設計・施工・管理まで「社会を創造する」エンジニアを育てるコースです。

環境デザインコース

限りある資源を有効に使いながら、自然と調和した持続可能な社会を形成し、安全で快適な環境をデザインする技術と知識を育成するためのコースです。

期待されます。さらに、土木工学科一年生三名のグループが、日本経済新聞社主催の「社会人基礎力育成グランプリ二〇二三」にて、みごとに準大賞を受賞しました。この大会は、大賞でのゼミにおいてどれだけ社会人基礎力を成長させたかを学生チームの発表によって競うもので、本学科岩城一郎教授の指導の下、地区大会を勝ち残り、前述の栄冠に輝いています。テーマは「道を身近（ミチカ）に」村民と学生との協働による道づくり」であり、彼らが福島県平田村で行われた官学産民の連携による道づくり事業に参加し、地域の人々とともにインフラ整備に携わることの重要性について学んだ内容を発表しました。今後の成長を期待したいと思います。土木工学科の就職状況は、校友の皆様のご尽力により、平成二十四年度内定率一〇〇%と工学部で最も高い内定率を得ることができました。公務員も多くの学生が合格しており、その中でも特に福島県や県内の市役所に採用された卒業生には、



日本大学生産工学部 土木工学科 Department of CIVIL Engineering College of Industrial Technology Nihon University

地球の上に未来を描こう!
Drawing Dreams on Earth for a Brighter Tomorrow!

土木工学科 教員紹介 就職関連 大学院 年間行事 入試案内 掲示板 HOME

Department of CIVIL Engineering

「土木と建築は何が違う?」
土木はなぜ建築から、昔はどんなふうなことをイメージしますか?

TOPICS & NEWS

- 2012/06/22 土木学部バスターコンクール開催!!
- 2012/05/21 建築 全業工学部スポーツ大会 土木工学科 総合優勝!!
- 2012/04/16 1年生オリエンテーション旅行に行きました!
- 2012/04/05 土木学部バスターコンクール開催されました
- 2012/04/02 平成24年度の順位が発表されました!
- 2012/03/26 平成23年度 卒業式が行われました!

Copyright (C) Nihon University College of Industrial Technology Department of CIVIL Engineering. All rights reserved.



福島県の復旧、復興に活躍してくれるものと期待しております。なお、工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思えますので、その節はご指導賜りますようお願いいたします。い申し上げます。

最後にになりましたが、工学部では、毎年北桜祭時に母校を訪ねる会を実施しています。今年度は、昭和三十八年、四十八年、五十八年、平成五年、十五年卒業生が該当します。該当される卒業年度の会員の皆さん、ご出席をお待ちしております。

福島県の復旧、復興に活躍してくれるものと期待しております。なお、工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思えますので、その節はご指導賜りますようお願いいたします。い申し上げます。

最後にになりましたが、工学部では、毎年北桜祭時に母校を訪ねる会を実施しています。今年度は、昭和三十八年、四十八年、五十八年、平成五年、十五年卒業生が該当します。該当される卒業年度の会員の皆さん、ご出席をお待ちしております。

【生産工学部・土木工学科】
主任教授 工藤勝輝



①主任教授挨拶
未曾有の震災から早二年と数ヶ月が過ぎましたが、被災された方々の一日も早い復興と健康を願います。また復興にご尽力される技術者、卒業生諸兄にはくれぐれも安全にご留意され、ご活躍されることを心からお祈りいたします。

◎震災を乗り越えて未来

を拓く
建設産業は、東日本大震災で被災した企業も多量に、震災直後から現在に至るまで、応急復旧活動やインフラの復旧、がれき処理や除染の中心的担い手として、その力を遺憾なく発揮し、改めてその役割の重要性が認識されました。震災からの月日を振り返れば、卒業生諸兄や在学生、そして教職員が土木・建設の可能性について考え、復興と防災を支える使命感を個々の職責のなかで少しずつ形にできたのではないでしようか。

維持更新時代、低炭素・循環型社会への対応、災害に強い国土づくり・地域づくりなど、建設産業



に対する社会的ニーズは日々多様化しています。震災の教訓とこれらの課題を乗り越え、「未来を拓く」担い手として、今後もその役割を果たすことが建設産業に求められています。そして土木工学科の在学生も、この思いに共感し、使命感を持って勉学に励む姿に、時折、頼もしさを感じます。今後も、卒業生諸兄と教職員が「未来を拓く」土木技術者を育てることが建設産業、さらには我が国の持続的発展を支える大きな希望であると念じています。

②学科の近況・イベント報告
土木技術者としての将来

来を楽しみにする教育
生産工学部土木工学科では、平成二十五年度からのカリキュラム改訂に伴い「技術者としての将来を楽しみにする教育」の具現化を目的に、

①将来像と技術者像を重ねる
②社会と技術を繋げる
③理論と現象を結び
達成目標の三本柱として、初年次導入教育の革新を推し進めました。これにあたっては、まず、カリキュラム全体を見渡したキャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育の体系化を意識し、導入科目の選定から具体的なシラバス設計を行っております。

昨年度はこの試行とし

て、土木のPRポスターコンテスト、ブリッジコンテスト、ソイルタワーコンテストなどを開催し、失敗・成功体験を通じて主体性の喚起とともに、競技形式によるグループワークと学内表彰の機会を積極的に設けることで、ものづくりに対するモチベーションの構築・向上に寄与しています。

写真からも分かるように、学生がものづくりに真剣勝負し、失敗の悔しさ、成功の喜びを思い切り表現する姿に、教育改革の確かな手応えを感じています。今後も、「土木技術者としての将来を楽しみする教育」を展開し、学生の「のびしろ」を刺激します。



学科行事便り

各学科で実施されているイベントの開催報告をいただいております。今号では、工学部土木工学科および理工学部土木工学科より現場見学会の報告が届いておりますので紹介させていただきます。

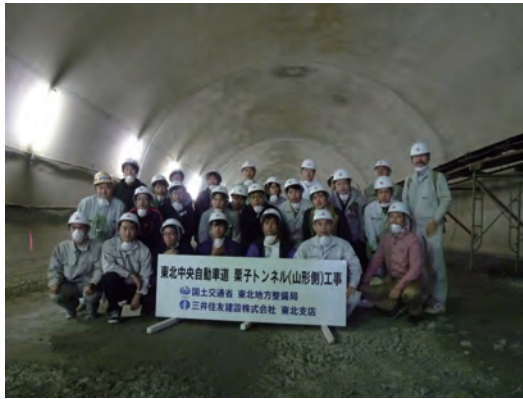
◎工学部土木工学科
学生見学会実施報告
渡邊英彦

平成二十四年十月十五日に工学部土木工学科では、学生見学会を実施しましたので、概要を報告させていただきます。

一、期日：平成二十四年十月十五日(月)

- 二、見学場所
 - ・栗子トンネル
 - ・会津縦貫北道路
- 三、見学の日程
 - 八時
 - 工学部十六号館前発
 - 十時〜十一時半
 - 栗子トンネル現場見学
 - 十四時半〜十六時
 - 会津縦貫北道路現場見学
 - 十七時
 - 工学部着

四、参加者学生数
学生二十四名



栗子トンネル坑道での写真



会津縦貫北道路 3 工区の橋台前

（一年生七名、二年生三名、四年生十三名、大学院生一名）

五、引率教員
教員三名
古河幸雄教授・堀井雅史教授・渡邊英彦教授

六、現地対応
栗子トンネル・国土交通省福島河川国道事務所・荒谷義成氏

会津縦貫北道路・国土交通省郡山国道事務所喜多方出張所・藤原孝徳氏・齋藤賢二氏

七、実施内容
・栗子トンネルインフォーマーションセン

ターにて、荒谷氏、施工関係技術者より東北中央自動車道の概要説明と栗子トンネルについての説明、及びビデオによるトンネル工事についての説明を受けた。トンネル延長は東北で一番、国内でも五番目であること、国道十三号線直下を約十メートルの深さで注意深く掘削したこと、連続ベルトコンベヤによるずり出しを採用したこと、最大土被りが六〇メートルを超えることなどの説明を受けた後、活発な

質疑応答となった。説明終了後に、工事関係施設、トンネル坑内の見学を行った。

・会津縦貫北道路では、藤原所長より全体概要の説明と三工区内の函渠工事、瀬川橋工事、橋台についてそれぞれの見学を行った。地盤が良好でないためにプレロード工法や緩速載荷工法、バーチカルドレーン工法、気泡混合土の採用など行われているとの説明を受けた。それぞれの見学場所、活発な質疑応答が行われ



ニューマチックケーソンの中



会議室での質疑応答

た。

・二箇所の現場見学を実施したが、学生からは工事の特徴や震災の影響などの多くの質問があり、非常に活発な質疑応答となった。今後、この経験を生かして、進路決定や勉学に励むことを期待したい。

◎理工土木現場見学報告
J R 総武線市川・本八幡間外環二道橋新設工事現場見学会
重村 智
日時・平成二十四年十二月十四日（金）
参加学生・理工・土木

学部三年生 十八名
JR側・増子隆行氏・鳴海彰三氏・四元聡子様・武田嘉氏・小島淳史氏

東日本旅客鉄道東京工務部の計らいで、JR総武線と東京外環自動車道の立体交差部の建設現場の見学会を開催しました。就職を控えた学生が参加したこともあり、質疑応答も活発に行われ、予定していた時刻を越えるほどの盛況でした。また、見学会後には参加学生と卒業生との意見交換会も開催し、ここでは、就職活動に関わる様々な質問が飛び交い、学生にとつ

て大変貴重な場となりました。以下、参加学生の感想を紹介いたします。

J R 東日本見学会感想
理工学部土木工学科 松浦亜祐美

現場見学会に参加して、現場見学会では、今後高速道路が開通することとなるケーソン内部など、あまり見ることのできない工事現場を見ることができました。

また見学会終了後、JRの社員の方々が企画してくださいました懇親会に参加させていただきました。社員一人ひとりの方々と積極的に話せる貴重な時間を過ごすことが出来ました。

た。その見学会がきっかけで、JRは私の就職志望企業の1つになりました。見学会の縁で、その後もJR主催の技術開発展示会に招待していただいたり、JRの面接に向けてエントリーシートへの添削及び面接のアドバイスをいただいたりして、私の就職活動の大きな転機となる貴重な体験をさせていただきました。

最後に本見学会を企画していただいた土木工学科の先生方、後援いただいたJRと日大土木会の皆様方にこの場をお借りして感謝いたします。ありがとうございました。

【訃報】
昨年より本年まで寄せられました情報で、以下の会員の方々がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りしますと共に皆さまにお知らせいたします。

小島正樹、桜井充、杉本好、堀内公雄、松田慎一郎
(敬称略・五十音順)